

2012. 5. 31.

日本コミュニケーション学会九州支部

KYUSHU CHAPTER of The Communication Association of Japan (CAJ)

NEWSLETTER

No.21 May 2012

事務局： 住所：850-8506 長崎市片淵 4-2-1 長崎大学経済学部 丸山真純
Tel:095-820-6376 Fax:095-820-6376 E-mail: kyushu@caj1971.com

支部長挨拶

支部長：伊佐 雅子(沖縄キリスト教学院大学)

新緑の季節となりましたが、CAJ九州支部の会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。このたび、2006年以降、休刊となっておりました、「支部ニューズレター」を復刊させました。

このニューズレターは1994年に発行され、長崎純心大学の畠山均先生が中心となり編集を進めてこられたと聞いております。先輩方の知恵と九州支部の良き伝統を引き継ぎ、このたび再発行できましたことを、心よりうれしく思っております。年に2回(5月と12月)の発行です。

運営委員の清水孝子先生(編集委員長)と副支部長の宮下和子先生が担当され、第21号の発行となりました。支部大会に参加できなかった方々もニューズレターで支部の活動を知り、また、会員同士の親睦を図っていただきたいと願っております。また、コミュニケーション研究に役立つ記事も提供したいと考えております。今回は、昨年年第18回支部大会の特別講演者、荒木正見先生のご講演「医療とコミュニケーション - リスクマネジメントの視点から - 」の要旨を掲載しておりますので、楽しんでください。また、昨年度の九州支部第18回大会の報告を、前大会実行委員長の高瀬文広先生に書いていただきました。

また、過去2年間、諸事情により支部の会計報告がなされておりましたので、この3月、2009年度と2010年度の決算報告書および2011年の予算報告書を皆様のところへ郵送しました。早速、承認のハガキをいただき、感謝申し上げます。ところが、後日、2010年度決算支部大会支出の合計に誤りがあることがわかりましたので、この紙面をお借りして、お詫び申し上げます。

今年のCAJ九州支部の第19回年次大会は、10月6日(土)に熊本学園大学で開催致しま

す。熊本学園大学では、これまで、第6回(1999年)と第10回(2003年)も会場を提供していただいております。今回は大会実行委員長の佐藤勇治先生のご尽力により、大学の同窓会より、補助金をいただけるようになりました。開催校を代表して、ご挨拶を佐藤先生にお願いしました。具体的な大会テーマやプログラムは決まり次第、支部のホームページでご案内申し上げます。

支部の会員には今年、異動がありました。熊本大学の船山和泉先生はCAJ九州支部を退会されました。また、関東学院大学に勤務されていた野中昭彦先生は、福岡に戻ってこれ、我々の仲間となりました。お二人には、「支部会員紹介」の中で、自己紹介と九州支部に対する思いを書いていただきました。

最後になりましたが、10月の支部大会へ、多くの会員の皆様、そして他の支部の方々も積極的に参加していただけることを期待しております。熊本でお会いできることを楽しみにしております。

CAJ 九州支部第18回研究大会を終えて

大会実行委員長：高瀬文広（福岡医療短期大学）

新年度が始まり、非常に慌ただしい時期ですが、CAJ九州支部会員の方々、如何お過ごしでしょうか？九州支部大会は2011年11月5日(土)に開催され、昨年で第18回目となりました。大会会場として、昨年も高瀬の勤務校である福岡学園福岡医療短期大学を利用して頂きまして、ありがとうございました。感謝申し上げます。これまでに、本学は第13回(2006年)と第14回(2007年)も会場として利用して頂いております。とてもコンパクトなキャンパス内の会場ですので、参加者の皆様にはご不便やいろいろと行き届かない点があったと存じます。この紙面をお借りして、お詫び申し上げます。



今大会のテーマは「医療とコミュニケーション」"Medical Services and Communication" ということで、元文京学院大学教授の荒木正見氏にご講演をして頂きました。実は荒木先生は文京学院大学にお勤めになられる前は、高瀬と同じ福岡学園の福岡歯科大学の教授で、その時からの知り合いです。短大の専攻科の学生が九大の大学院で医療コミュニケーションを研究したいということで、大学院の試験対策をしてあげていたときに九州大学大学院の教授で荒木登茂子という先生がおられるのを知ってコンタクトを取ったところ、何とその方は奇遇にも荒木正見先生の奥様だったということが分かりました。御夫君の荒木先生は哲学者でマラソン等の長距離選手の育成もしておられる方、また奥様の荒木先生は医療コミュニケーションを大学院等で教えられている方で、日本ヘルスコミュニケーション学会会長(当時)でした。そこで、第18

回の支部大会では、お二人にお声かけして医療コミュニケーションをテーマにご講演をお願いしました。その結果、御夫君の荒木先生の「哲学的な医療コミュニケーション」について、興味深いお話しを拝聴することができました。

支部大会を開催するときに毎回一番苦労するのが、研究発表者の数です。今回の大会は幸運にも6名の発表者が得られ、大盛会となりました。発表者は、ほとんど毎回ご発表して下さるレギュラー的存在の宮下和子先生（鹿屋体育大学）、「伊豆の踊子」とその英語訳における呼称についての考察」という主題でご発表になった林裕二先生（西南女学院大学）や「法廷における談話分析」という主題の田中弘恵先生（長崎県立シーボルト大学）。加えて、沖縄キリスト教学院大学の修士課程修了生のイワヤン・ラチマ・ギアナさんと石川直美さん、また九州大学比較文化学府博士課程3年の田中美香さんの3名の大学院生の発表もありました。高齢化し、若い研究者が少ないCAJ九州支部にとり、こうした大学院生の発表は将来の九州支部の若返りと発展という点で非常に好ましい事です。今回の院生の発表に関してアドバイスやご支援をして頂いた先生方に深く感謝申し上げます。

最後に、支部大会の盛会のために、ご支援やご協力をして頂いたCAJ九州支部の会員の皆様に感謝を申し上げ、本大会のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

特別講演の内容報告

日本コミュニケーション学会九州支部第18回大会にて(2011年11月5日)

「医療とコミュニケーション - リスクマネジメントの視点から - 」

講師: 荒木 正見(元文京学院大学教授)

この講演では、医療現場における様々なリスクを回避することができるために、主にコミュニケーションの立場から行う教育訓練の一端を、オリジナルのエクササイズを交えて論じる。

個々のリスクにおける対応にはそれぞれにふさわしいマニュアルも作られ、その技術も磨かれつつある。しかし、それでもさまざまなリスクが生じ、生じさせる現場には常に人間が存在する。とりわけリスク回避には良好なコミュニケーションが求められるが、単に何かを伝えればよいというのではなく、人格的な背景を整えることが重要である。この講演はその角度からの考察である。

さらに、リスクという異和感に気付きやすいのは、ゆとりが必要である。この講演では、論旨を追うとともに、リスク感受性を自己認識できるオリジナルのエクササイズをいくつか提起



する（当抄録では割愛）。

さて、高い感受性を持ち良好なコミュニケーションを遂行することができる真のゆとりを得るためには、統合的安定的な人格形成と自己環境づくりが必要であるが、それらをここでは人格的安定 倫理的生き方 論理的思考 総合的感受性の4点に分けて述べる。

「人格的安定」に関しては、自らのコンプレックスやバイアスに気付き、それを考慮しつつできるだけゆとりを持てるような生き方をし、可能な限り自らの人格を発達させ安定的な生き方が自然にできるようになることが必要である。その目安として我が国の医学教育の一環に組み込まれている「エリクソンの人格発達段階図式」はもとより、「TA図式」などを参考にし、適当なスーパーバイズを得て、自らを発達させることが望まれる。

「倫理的生き方」に関しては、医療倫理は医療水準でもあることを自覚して、人類の生存、世界の生存を基礎にした思考と行動がとれるようにすることである。そのためには「生存のためには無限で多様な知識が必要である。」（知識による危機管理原則）や「同時に、総ての知識の位置関係、特に実行すべきか、否かについての知恵が重要である。」（生存の倫理原則）などを理解し実行することが求められる。

「論理的思考」に関しては、起承転結、序論本論結論などの論理的思考方法に慣れることと、それを基本にしたコミュニケーション能力を持つことである。

「総合的感受性」に関しては、これまでのすべての総合でもある。すなわち、幅広い教養、自由な文化芸術活動、他者との交流などへの関心と参加とトレーニングを通して、豊かな人格と人間関係を持つことである。

以下、それらの具体的展開に関する説明、燃え尽き、QOL、ハラスメント、インシデント = アクシデントレポート等々の説明とエクササイズを解説する。

支部会計報告

2009年度決算報告 2010年度決算報告 2011年度予算報告

事務局長 丸山 真純(長崎大学)

先日は、皆様方から2009～2010年度の決算および2011年度の予算を承認していただきました。ご多忙のところ、ありがとうございました。

誤りがございましたので、この場をお借りして、訂正申しあげます。2010年度決算の支部大会支出の合計に誤りがございました。なお、全体の収支に誤りはありません。

(誤)

2010年度決算

支部大会支出	184,679
--------	---------

内訳	弁当代	11,250
	懇親会費	48,000
	茶菓	3,260
	講師謝礼	20,000 (20,000 円 × 1 人)
	アルバイト代	8,000 (4,000 円 × 2 人)
(正)		
	支部大会支出	<u>90,510</u>
内訳	弁当代	11,250
	懇親会費	48,000
	茶菓	3,260
	講師謝礼	20,000 (20,000 円 × 1 人)
アルバイト代		8,000 (4,000 円 × 2 人)

第 19 回支部大会のご案内

開催校を代表して挨拶

支部大会実行委員長 佐藤勇治(熊本学園大学)

久々にCAJ九州支部大会を熊本で行います。熊本では昨年三月に九州新幹線が開通し、駅周辺の再開発も進められています。また、今年四月には熊本市が九州で三番目の政令指定都市になり、新たな街作りにはずみがついています。大会校である熊本学園大学では、昨年4月に附属中学校が開校し、今年四月には附属幼稚園の園舎が正門横の多目的グラウンド内の敷地に移転新築され、明るく元気な園児たちの声がキャンパス内で聞こえるようになりました。このような変化の息吹が感じられる熊本の地に皆様をお迎えできますことを、開催校として大変嬉しく存じます。

九州支部が長崎純心大学の第1回大会で誕生して以来、早くも19年です。人間の歳で言えば成人式を迎える一年前、10代最後の年となります。これまで築き上げてきた財産をよく点検し、良き伝統は継続し、改善すべきは正す。その上で、20代の大人の世界へと足を踏み入れ、この支部が益々良き方向へ発展するように、10代を締めくくる総括的の大会となるような知恵をめぐらせてみようかと思っております。具体的な大会テーマやプログラムは別途ホームページを通じてご案内がありますので、多くの会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

第 19 回支部大会研究発表募集

第 19 回支部大会は今年 10 月 6 日(土)、熊本学園大学で開催します。研究発表を募集します。募集要領に従ってご応募下さい。締切は 7 月 31 日(火)です。多くの方々の研究発表をお待ちしております。

紀要 9 号発行のお知らせ

支部 HP に紀要の第 9 号が掲載されています。 <http://www.caj1971.com/~kyushu/>

支部会員紹介

(敬称略)

氏名 野中昭彦 (所属) 中村学園大学

九州支部の皆様、お久しぶりです。横浜の関東学院大学での 6 年間の勤務を終え、福岡に再び舞い戻りました。思えば 1997 年に長崎純心大学で CAJ の全国大会があったのを機に入会させて頂いて、あっという間に 15 年が経ちました。九州支部の個性溢れる先生方とコミュニケートや飲みニケートをする中で多くを学ばせて頂き、たくさんの思い出がありましたから、九州を去る際はとても寂しく感じたのを覚えています。そのため、今回中村学園大学が私を迎えてくれたことに心から喜びを感じている次第です。しかしながら横浜で過ごした時間で私はコミュニケーション学の認知度向上の方法を体感でき、自らが異文化を体験し、かつ人間的に成長する絶好の機会となりました。

関東学院大学では当初英語のみを担当する教員として採用されたのですが、徐々にコミュニケーション学の授業も担当させていただき、私が辞める時には「野中さんの後釜はコミュニケーション学の専門家でない」と学科内で学問的存在が認められるまでになりました。これはコミュニケーション学研究者の一人としてこの上ない賛辞であり、また学生たちもコミュニケーションという言葉の雰囲気だけでなく学問的な追究を望んでいる表れでした。折しも、就職氷河期と言われる今の日本社会で、「即戦力として最も要求される要素がコミュニケーション能力である」と企業の人事担当者たちは異口同音に訴えます。まさに現代の社会的需要に合致した学問がこのコミュニケーション学なのです。

その 6 年間の横浜滞在で、関東と九州の生活習慣、考え方などの違いを深く実感しました。関東では多くの場所から人が集まっているからか、冠婚葬祭等の儀礼的行事の簡素化が感じられました。九州で生まれ育った私には当初それが「希薄な人間関係」とすら感じられたものです。しかし次第に「合理的人間関係」とも考えられるようになりました。住めば都です。人間はいつの

間にかその文化に染まり、慣れていくのです。まさにカルチャーショックとそのショックからの回復の過程でした。今は逆カルチャーショックが不安なくらいです。

また、横浜にいる間に我が家に子供が生まれました。まだ1歳半ですのでようやく単語をしゃべり始めた段階です。人間が生まれ社会化を体験する第一歩である家族という単位を確立し、一人の人間を育てることで自分も成長していると感じます。同時に育ててくれた両親に対する感謝の気持ちも日に日に増しています。ここ数年高齢者研究を行ってきたせいか、いかに死ぬかはいかに生きるか、という関係性を考えるようになりました。人はこの世に生を受けやがて死ぬ。その中で精いっぱい生きていくことが充実した人生であることを子育てを通して日々学んでいる気がします。

今後は福岡に永住することを決めましたので、九州支部の永久会員になります。九州を日本におけるコミュニケーション学のメッカにすべく、研究に、そして教育に邁進していく所存ですのでこれからもどうぞよろしく願いいたします。地球温暖化に加え、節電で今年の夏も暑くなることと思いますが、暑苦しい私の熱気で全体的に九州の気温が更に1-2度上がるかもしれません。その際はどうぞご了承ください。

氏名 船山和泉 (所属)

この3月をもちまして熊本大学を退職し、6月から家族で米国に移り住むこととなりましたため、CAJ九州支部を去ることとなりました。

2002年にテキサス大学オースチン校を卒業して熊本大学に着任してから10年間の間、CAJ九州支部及び支部会員の方々には大変お世話になりました。支部大会における発表や紀要での論文掲載など、研究者として実績を積む機会をいただいただけでなく、会員の方々と様々な形で交流させていただきましたこと、大変ありがたく思っております。また、会員として役員として、みなさまにしかるべき貢献ができなかったこと、心苦しく思っております。この場を借りてお礼とお詫びを申し上げます。

この決断にいたるまでには大きな葛藤がありましたが、今は自分が体験している人生の不確かさや不可思議さの様なものの醍醐味を感じております。私は大学の教員・研究職を離れることとなりますが、いつかまた皆様と何かの形で一緒できることを楽しみにしております。最後に会員の皆様のご健勝とCAJ九州支部のますますのご発展を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

事務局からのお願い

所属が変わり、連絡先の住所等が変わる場合、必ず事務局までお知らせください。

編集責任者 清水孝子